

## 教員活動状況報告書

提出日：令和 5 年 3 月 6 日

所 属： 生命・環境科学部 食品生命科学科

氏 名： 齊藤 千佳 職位：講師

役 職：

## I ティーチング・ポートフォリオ

## 1. 教育の責任（教育活動の範囲）

食品生命科学科に所属し、食品学を中心とした教育・研究活動を行っている。主な教育活動は食品関連科目（食品学、食品加工学・保蔵科学）および分析関連科目（機器分析学・同実習、食品分析学実習）の担当、研究室生の研究支援、クラス担任としての学生支援である。

| 科目名          | 学科・専攻   | 必, 選, 自 | 配当年次 | 受講者数 |
|--------------|---------|---------|------|------|
| 食品学          | 食品生命科学科 | 必       | 2    | 60   |
| 食品加工学・保蔵科学   | 食品生命科学科 | 必       | 3    | 59   |
| 機器分析学・同実習    | 食品生命科学科 | 必       | 1    | 45   |
| 食品分析学実習      | 食品生命科学科 | 必       | 3    | 59   |
| 卒業論文         | 食品生命科学科 | 選       | 3,4  | 21   |
| フレッシュャーズセミナー | 食品生命科学科 | 必修      | 1    | 50   |

## 2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

食品に関する幅広い知識を習得する中で自分のやりたいことを見つけ、目標に向かって努力し、自らが目指した分野で活躍できる人材を育成したい。自分の将来像がはっきりとしていれば、自ずと目標に向かって努力できると考える。目標を見つけるために、まずは学ぶことの楽しさを体得してもらいたい。そのためにはまず「何故と疑問に思う力をつけることが重要である」と考える。わからないことが解決したときに喜びと自信がつき、より一層興味が湧いてきて、学ぶことが楽しくなるのではないだろうか。さらに、気づきを得たときの喜びを他者と共有、発信することで知識を整理し、定着させることができると考える。担当している座学の科目は食生活に直結した内容となっており、授業で得た気づきを自身の食生活に反映させることで知識の定着に繋げてほしい。さらに自身や身近な人だけでなく、世の中の食環境を見つめ直し、健康の維持増進に貢献できる人物となってほしい。

## 3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）

「考える機会を設けることで気づきを与える」

- ・座学の授業ではクイズ等を交えることで学生が考える機会を設けるようにしている。

- ・実習科目では例題を解き、事前に計算方法やグラフ作成方法等を学ぶことでレポート作成をスムーズに行えるようにしている。
- ・研究室生への研究支援では、得られた結果からどのようなことが言えるか、今後どのようにすべきかまずは学生自身がしっかりと考察したうえでディスカッションをするように心がけている。
- ・授業の最終回にレポートを作成してもらい、学んだことを実際の食生活にどう活かせるか、考えてもらうようにしている。

#### 「授業についていけなくならないように配慮する」

- ・座学の授業ではスライドに写真や絵を載せる、実際に販売されているものを例に挙げて説明をする等、イメージしやすいように工夫をしている。
- ・学生がわからない（覚えていない）可能性のある用語や事柄は繰り返しとなっても説明を加えるようにしている。
- ・話すスピードや声の大きさ等、聞き取りやすさを考慮しながら講義を行うように気を付けている。

#### アクティブラーニングについての取組

- ・実習科目では事前に配信した説明動画を視聴、問題を解いてもらい、事前学習を行った。
- ・食品学の授業では、授業の最終回に「自分の食生活を振り返って」というタイトルでレポートを書いてもらっている。レポート内容は初回授業時に伝え、授業を通じて自分の食生活をどう改善したら良いか考える機会を設けている。

#### ICT の教育への活用

- ・実習科目では実験方法の詳細を記した動画を事前にオンラインで配信し、操作方法や手順等を確認したうえで実習に参加してもらうようにしている。
- ・座学の授業は授業の録画を配信することで、何度でも聞き直すことが出来るようにしている。

### 4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

#### ①教育（授業，実習）の創意工夫（B）

授業評価で概ね良好の評価を得ているが、魅力的な授業となるようグッドティーチング賞受賞者の授業を参考にしてさらに工夫をしていきたい。

#### ②学生の理解度の把握（A）

毎回授業の最後に復習の小テストを行うことで理解度の把握を行っている。さらに、次回授業の始めにも再度問題を解く時間を設け、その後解説を行うようにした。繰り返し問題を解くことで知識の定着に繋げたい。

### ③学生の自学自習を促すための工夫 (B)

小テストや中間テスト、期末テストを行うことで自学自習を促している。テストの点数が伸び悩んでいる学生には何度も受験の機会を与えるようにした。今後はテスト勉強以外にも授業で興味を持ったこと、疑問に思ったこと等に関してさらに詳しく調べてレポートにまとめてもらい、学ぶことが楽しいと思ってもらえるように工夫したい。

### ④学生とのコミュニケーション(質問への対応等) (A)

座学では授業後に直接質問にきた学生には納得するまで丁寧に回答するよう心掛けた。実習では適宜声がけをして、実験がスムーズに進むよう気を配った。その他、メールでの質問も受け付けている。質問にはなるべく早めに回答するよう心掛けている。

### ⑤双方向授業への工夫 (C)

座学の授業ではクイズや質問を投げかけているが、まだまだ足りていないと感じる。実習では事前に実習の操作手順を動画でアップしている。

※A (十分実施している) B (実施しているが十分でない) C (うまく取り組めていない)

## **5.学生授業評価**

### ①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

授業前に授業スライド内に空欄を作ったものを PDF にして學理にアップした。授業後には復習用資料として Word に要点をまとめた穴埋め式のプリントをオンライン上に用意し、各自ダウンロードして印刷または直接書き込みができるようにした。

### ② ①の結果はどうでしたか。

穴埋めタイプのプリントで復習しやすかったとのコメントがあり、好評であった。書き込みの分量も適切であるようであった。

### ③ ②を踏まえて次年度はどのように取り組みますか。

今回のやり方が好評であったことから、次年度も同様に進める。

## **6.学生の学修成果**

### ①学生の成績向上に資する取組

・學理上で行っている小テストは受験回数に制限を設けず、繰り返し受験できるように設定をしている。繰り返し問題を解くことで知識の定着に繋がると考えている。

## ②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

- ・実験の説明動画を事前配信し、さらに対面でも丁寧に説明をしたところ、スムーズに実習ができたとのコメントが得られた。
- ・食品学の授業評価で、身近な食品を例に挙げてわかりやすく解説してくれる点が良かったとのコメントがあった。
- ・復習用の穴埋め資料があったので勉強しやすかったという意見が多かった。
- ・話すスピードがゆっくりでわかりやすいとの評価が多かった。
- ・卒論を履修している学生より、「考察することの楽しさを知った」というコメントがあった。

## 7. 指導力向上のための取組

様々なFD研修会に参加している。また他の先生方と意見交換を行った。

## 8. 今後の目標

今回卒論生に「考察することの楽しさ」を感じてもらえたのは大きな進歩であるが、理念に掲げている「疑問に思う力」をより多くの学生に身につけてもらえるようにしたい。まずは学ぶことを楽しんで、自ら進んで調査・学習をする姿勢を築いてもらえるようにしていくことが必要であると考え。そのために「考え、調べる時間」、それを「アウトプットする機会」をもっと設けるようにしていきたい。

## 9. 添付資料（根拠資料）

- ・シラバス
- ・配布資料
- ・授業動画
- ・小テスト、中間テスト、期末テスト
- ・レポート課題
- ・学生による授業評価

## 参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタートブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

### 1. 授業に関するもの

シラバス，小テスト，宿題，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）

### 2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

### 1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

### 2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

### 3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡